

平成29年度北斗市立小・中学校 全国学力・学習状況調査結果報告について

この調査は、文部科学省が幅広く、全国の児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施していますが、実施教科が4教科のみであることや学習指導要領の全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要です。この結果だけで、学校や児童生徒の評価をしないでいただきたいと思えます。

北斗市教育委員会では、全国学力・学習状況調査の結果を例年のように大規模校についてのみ公表することといたしました。
(小・中規模校については、個人が特定されるおそれがあるため、公表いたしません。)

北斗市教育委員会

調査の概要

I 調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るために、調査を行います。また、各学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために行っています。

II 調査対象

国・公・私立学校の小学校6年生、中学校3年生の原則として全児童生徒を対象としています。

III 教科に関する調査

○国語A 算数・数学A(主として「知識」に関する問題)

身に付けておかなければ後の学年の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようにすることが望ましい知識・技能などを調査します。

○国語B 算数・数学B(主として「活用」に関する問題)

知識・技能等を実生活のさまざまな場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容を調査します。

IV 生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査

○児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境や生活面に関する調査をします。

○学校に対する調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査をします。

V 下位層について

全国の結果で下位およそ25%と同じ正答数の範囲に属する児童生徒のことをいいます。下位層の割合は、低いほどいいこととなります。

小学校

教科に関する調査

《平均正答率》

北斗市内小学校 各教科の平均正答率(%) 6年生422名

	国語A	国語B	算数A	算数B	4教科計
北斗市	77.0	60.0	82.0	47.0	266.0
全道	74.0	56.0	77.0	44.0	251.0
全国	74.8	57.5	78.6	45.9	256.8
全道差	3.0	4.0	5.0	3.0	15.0
全国差	2.2	2.5	3.4	1.1	9.2

○北斗市では、必要最低限の学力を全ての子どもたちに身に付けさせるため、下位層の底上げを重点とし、その結果として小・中学校ともに、各教科の平均正答率が全国以上になることを目指しています。

小学校では、国語A、国語B、算数A、算数Bの4教科全てで、全国・全道の平均正答率を上回っています。北斗市が目指す目標を達成いたしました。

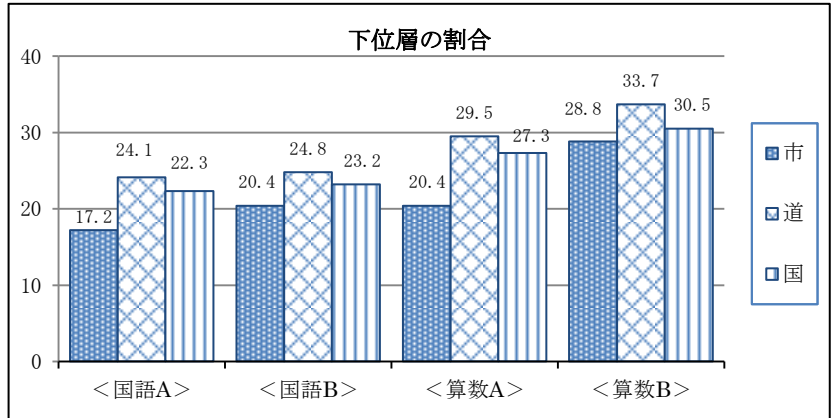
○国語Aについて、「話すこと・聞くこと」と、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で、全国の平均正答率を上回っています。「書くこと」、「読むこと」で、全国の平均正答率を下回っています。

○国語Bでは、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」で、全国の平均正答率を上回っています。「読むこと」で、全国の平均正答率を下回っています。

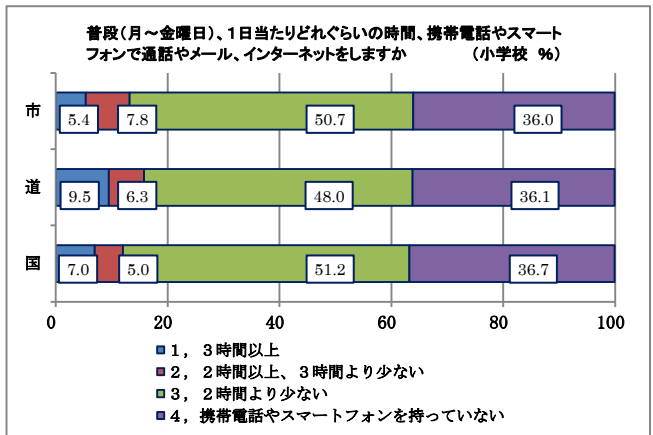
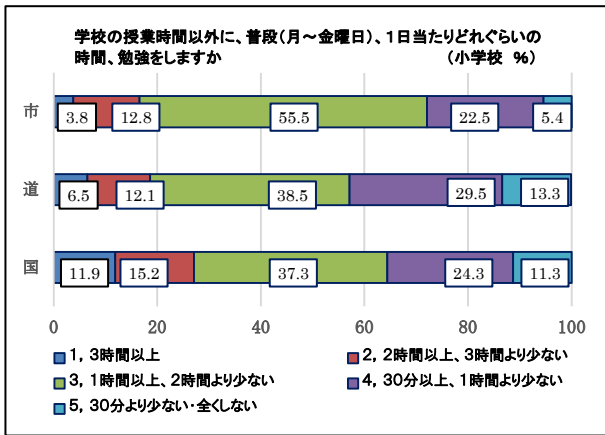
○算数Aでは、「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」の全ての領域で、全国の平均正答率を上回っています。

○算数Bでは、「数と計算」、「数量関係」で、全国の平均正答率を上回っています。「量と測定」、「図形」で、全国の平均正答率を下回っています。

《下位層の状況》



○小学校では、国語A、国語B、算数A、算数Bの4教科全てで、全国・全道の下位層の割合を下回っています。
 《無解答率の状況》
 ○全教科50設問(国語A15問、国語B9問、算数A15問、算数B11問)全ての設問で、全国・全道の無解答率を下回っています。



小学校4校の平均正答率(%)

	国語A	国語B	算数A	算数B	4教科合計
A	80.0	61.0	88.0	48.0	277.0
B	74.0	53.0	78.0	44.0	249.0
C	79.0	65.0	87.0	53.0	284.0
D	68.0	53.0	73.0	38.0	232.0

子どもたちは、解答を文章で書く問題について、無解答率の低さにみられるように、最後まで粘り強く取り組んでいます。
 国69.9%
 (市73.9%)

児童に対する質問紙調査

○普段(月～金)、携帯電話やスマートフォンで、通話やメール、インターネットを一日あたり三時間以上の割合が、昨年の北斗市の調査より上回っています。(今年度5.4% 昨年度4.7%)

○今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありました。最後まで解答を書くよう努力した割合が、全国・全道を上回りました。(市81.8% 国77.2%)

今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、最後まで解答を書くよう努力した割合が、全国・全道を上回りました。(市73.9% 国69.9%)

学力向上の取組

小学校A校

○「めあて、まとめ、振り返り」のある授業展開の徹底やチャレンジテスト、サポート問題を活用した授業改善を図っています。

○中学校区学習スタンダードを全クラスで活用し、学習のきまりの定着を図っています。

○放課後の補充学習のほかに、朝学習でチャレンジテストに繰り返し取り組んでいます。

小学校B校

○五・六年生を対象に全国学力・学習状況調査の問題を複数回実施したり、国語の苦手分野について補充学習をしたりしています。

○中学校区学習スタンダードを活用して子どもの発達段階に応じて指導しています。

○正答率が全国の下位約25%に含まれる児童を対象として、放課後サポート学習を実施しています。

小学校C校

○定着率の低い単元を「重点単元」と位置付けて教育課程を編成しています。

○小中9年間を見通した家庭学習の手引きの作成や小・中合同による教科別交流会を実施しています。

北斗市内中学校 各教科の平均正答率(%) 3年生436名

	国語A	国語B	数学A	数学B	4教科計
北斗市	77.0	75.0	67.0	48.0	267.0
全道	77.0	72.0	64.0	47.0	260.0
全国	77.4	72.2	64.6	48.1	262.3
全道差	0.0	3.0	3.0	1.0	7.0
全国差	-0.4	2.8	2.4	-0.1	4.7

中学校

《教科に関する調査》
《平均正答率》

○長期休業中、休み時間、放課後に補充学習を実施し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っています。

○中学校区で家庭学習強調週間を設定し、学習習慣の確立を目指しています。

○全国学力・学習状況調査を分析し、結果と課題を全教職員で共有し、改善に向けた取組を行っています。

○中学校区で家庭学習強調週間を設定し、学習習慣の確立を目指しています。

小学校D校

○朝学習と放課後サポート学習をセツトにした補充学習やチャレンジテストを活用した長期休業中の学習プリントを作成しています。

○中学校では、国語B、数学Aで全国・全道の平均正答率を上回っています。国語A、数学Bで全道の平均正答率を上回っていますが、全国の平均正答率を下回っています。

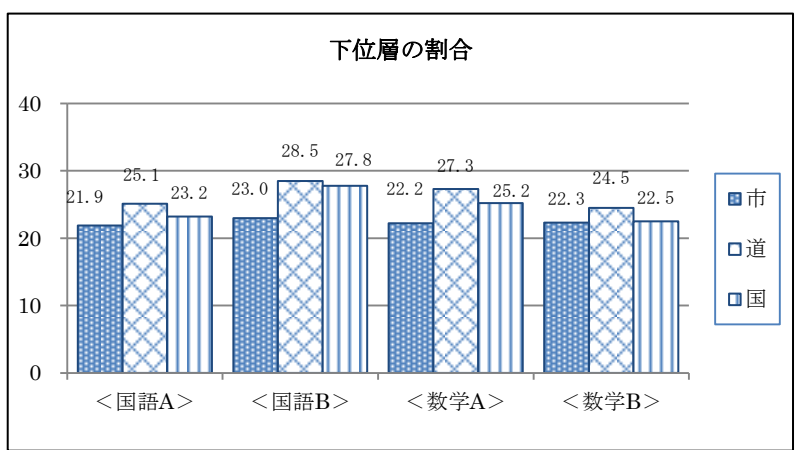
○国語Aについては、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」で全国の平均正答率を上回っています。「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国の平均正答率を下回っています。

○国語Bでは、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全てで全国の平均正答率を上回っています。

○数学Aでは「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の全てで全国の平均正答率を上回っています。

○数学Bでは、「関数」、「資料の活用」で全国の平均正答率を上回っています。「数と式」、「図形」で全国の平均正答率を下回っています。

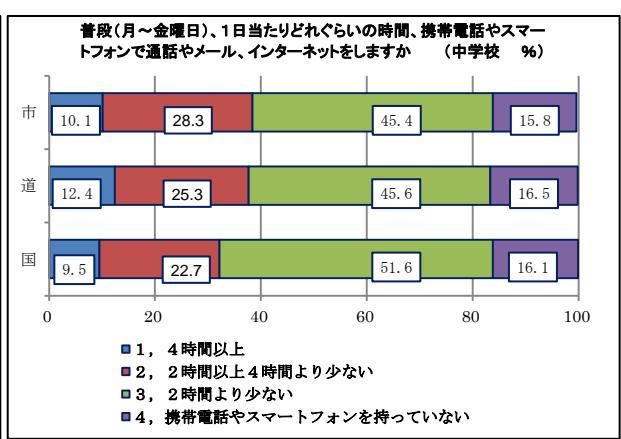
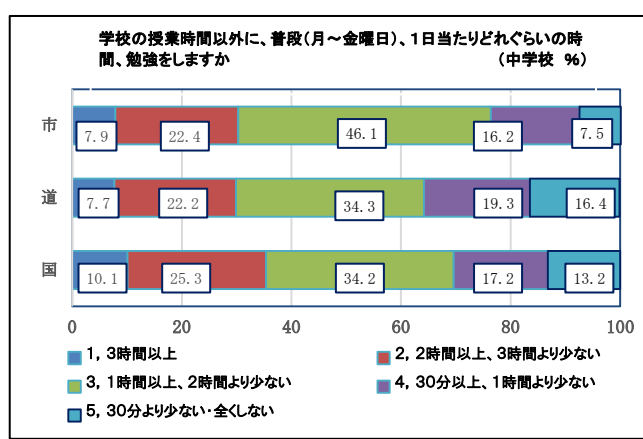
《下位層の状況》



○中学校では、国語A、国語B、数学A、数学Bの4教科全てで、全国・全道の下位層の割合を下回っています。

《無解答率の状況》

○全教科92設問(国語A32問、国語B9問、数学A36問、数学B15問)で、国語Aの1問が全国・全道の無解答率を上回っています。その他の全ての設問で全国・全道の無解答率と同じか下回っています。



生徒に対する質問紙調査

○普段(月々金)携帯電話やスマートフォンで、通話やメール、インターネットを一日あたり三時間以上の生徒の割合が、昨年の北斗市の調査より上回っています。(今年度10.1% 昨年度2.0%)

○今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありました。最後まで解答を書くことと努力した割合が、全国・全道を上回りました。(市79.6% 全国72.3%)

○今回の数学の問題で、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。最後まで解答を書くことと努力した割合が、全国・全道を上回りました。(市64.3% 全国55.4%)子どもたちは、解答を文章で書く問題について、無回答率の低さに見られるように最後まで粘り強く取り組みんでいます。

中学校3校の平均正答率(%)

	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	4教科合計
A	76.0	73.0	67.0	49.0	265.0
B	77.0	77.0	66.0	47.0	267.0
C	79.0	75.0	66.0	47.0	267.0

学力向上の取組

中学校A校

○数学科における少人数指導(個に応じた指導を行うこと)により学力の底上げを図っています。

○校区の小学校と学力向上に向けた「生活・学習習慣」などのスタンダードの取組や学力・学習状況調査結果の交流で連携を図っています。

○基礎基本の確実な定着や学習意欲を向上させるために長期休業中や放課後学習会に取り組みんでいます。

中学校B校

○校内研修と連動した授業改善を行い、わかる授業づくりや学習規律の徹底で、学力の向上を図っています。

○全国学力・学習状況調査の分析結果の交流や小中の授業参観交流、合同教科別交流会を行ったり、小中家庭学習強調週間の設定をしたりして、連携を図っています。

○長期休業中や放課後を活用して、補充学習等の取組を行い基礎基本の学力の徹底を図っています。

中学校C校

○学力向上に向けた方策(チャレンジテスト・朝学習)やICT機器を活用した授業や校内研修を行い授業力の向上を図っています。

○家庭学習強調週間を設けたり、小中連携研修会で9年間を見通した教育活動の構築に向け協議したりして連携を図っています。

○全校生徒を対象にして放課後学習会を行ったり、教科質問日、長期休業中の学習会を設けたりして基礎基本の学力の徹底を図っています。

北斗市の子どものよき

○「はじめは、どんな理由があってもいけないことだと思えますか」という質問に対し、「どんなことがあってもいけないことだ」と答えている割合が全国・全道を上回っています。(小学生市87.2% 国81.2%、中学生市81.4% 国73.3%)

○「学校の授業時間以外に、普段(月々金曜日)、一日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」という質問に対し、「一時間以上勉強します」と答えている割合が全国・全道を上回っています。(小学生市72.1% 国64.4% 中学生市76.4% 国69.6%)

学校のよき取組

○中学校区で、中学校教員が小学生の授業をおこなったり、小・中合同で研修会を実施したりするなど、小学校と中学校が連携して、9年間を見通した教育活動を行っています。

○北斗市の小・中学校では、長期休業中や朝の時間、放課後を活用して、学習内容の定着を図る取組を徹底し

家庭へのお願

○普段(月々金)、一日あたり携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間について、小学生、中学生ともに一日2時間以上している割合が昨年の調査を上回っています。(小学生今年度13.2% 昨年12.1% 中学生今年度38.4% 昨年31.9%)

○家庭におかれましては、お子さんの家庭での過ごし方やゲームやスマホの利用について、お子さんと話し合うなど、見直しをお願いいたします。

○朝食について、小学生、中学生ともに、「毎日食べている」と答えている割合が、全国・全道を下回っています。(小学生市84.1% 国87.0% 中学生市80.7% 国82.7%) 子どもたちが健やかに成長していくために、適切な運動、調和のとれた食事、十分な睡眠が大切です。子どもたちによりよい生活習慣を身に付けていきたいものです。